

(敦島小) 学校 学校関係者評価書 (前期)

平成25年8月1日 (木)

(敦島小学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成25年7月18日 (木) 午後3時30分～5時00分

会場：敦島小学校図書室

参加者：(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之、清水 美代子、松土 仁郎
辻 英夫、三井 和彦

P T A代表：山田 静香 (P T A会長)、

(学校側)

校長 志村 隆
教頭 坂本 祐二
教務主任 松井 渉

I 学校側から提案された内容

学校側から、6月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標に関して・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

II 協議された主な内容

1 教職員自己評価及び児童アンケートの結果について

- ・ 児童へのアンケート、全質問25項目中 (内3問は具体的な数字で答えるもの)、肯定的な回答が80%を超える項目が17個であり、全般的には良好な様子が伺える。ただし、項目によっては、数は少なくとも、否定的な回答をした児童がいることはしっかり押さえておく必要がある。「学校が楽しくない」と答えている児童が7人、「朝ご飯を食べていない児童が3人いる」などの項目である。個々の児童について可能な範囲でその児童全体の分析もしておくが良い。「相談できる友だち、教師がいない」児童が30人ほどいる点も、いじめ問題に関わり、児童理解に様々な角度から取組、素の数を減らして行って欲しい。Q-Uテストを行っているので、効果的に活用していきたい。
- ・ 児童アンケートによれば、全校児童の94.6%が、学校が「とても楽しい」「楽

しい」と回答しており、学校生活を肯定的に捉えている様子が見えてくる。

- ・教職員自己評価で、「学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている」という設問に対し、職員のほとんどが「そう思う」「ややそう思う」と回答している。教職員が学校経営方針を理解するとともに、日頃の教育実践や校務分掌を遂行する中で、学校教育目標の具現化に努めているからであると考えられる。
- ・校内研究については、今後、ブロック（学年）ごとに具体的な研究が更に進む予定である。思考力・判断力・表現力を育成するために言語活動の充実に取り組んで行く。今年度は、甲斐市教育委員会の研究指定（平成24、25年度）の2年目に当たる。言語活動の充実を通じた授業における指導方法の工夫改善を目指した研究を一層行って欲しい。
- ・防犯（6月に起きた首都圏での下校時の児童傷害事件も受けながら）、防災、事件、事故等に対する危機管理マニュアルの理解については、十分理解する機会と時間の確保に一層努める必要がある。不審者侵入に関わる訓練も効果的に行って欲しい。防災に関しては、東日本大震災から学んだ多くの体験を生かすために、マニュアルの継続的な検討を引き続き行っている。日頃の訓練をより現実に近い形にし、保護者と連携をして、引き渡しの在り方を今後も検討していく必要がある。防災上の地域の特色もしっかりと把握していくことが大切であり、県の防災教室研修の成果なども積極的に還元して行って欲しい。
- ・通学路の安全確保については、継続的に点検を行っていき、地域との連携も図りながら児童の安全確保に努力していく必要がある。昨年度課題であった場所が改善されつつある。引き続き見直しを行って行く。老人クラブの方々には、「高齢者と子どもの帰り道ふれあい事業」で日頃よりお世話になっており、感謝したい。

2 学習指導について

- ・児童アンケートで、「授業中に質問や意見を言っていますか」に対し、25.0%の児童が「あまり言っていない」「言っていない」と回答し、「わからないことがあったら先生に聞けますか」という設問に対しては、昨年度より改善されているが、21.8%の児童が「あまり聞いていない」「聞いていない」と回答した。より主体的な授業への参加を目指していくため、低、中、高学年を問わず、疑問点はそのままとしないで、質問できる、する教室環境を作っていくことにも一層心がけて行って欲しい。
- ・評価規準と評価方法を明確にした授業や教材・教具や備品の活用については、指導と評価の一体化という観点から、つまずきの発見や学力の定着のためにも、自己評価書の改善策にあるように職員同士での実践紹介や効果についての研究を引き続き実施していく必要がある。
- ・家庭学習については、宿題を忘れずに行うための継続的な指導を行うとともに家庭の協力を得ていくことが必要である。
- ・楽しい授業、わかる授業を目指し、今後とも個に応じた指導（繰り返し指導、グループ別指導、補充的な学習等）や体験的な学習（作業、実習、創作、実験）の充実を図っていくことが求められる。

3 生徒指導について

- ・学校を休みがちな児童への対応として、学校としてはスクールカウンセラーの活

用、保健室の活用、担任による学習支援や相談活動を行っている。引き続き関係機関（教育機関、医療機関等）や家庭との連携を密にし、保護者が一人悩むといったことがないように、また、保護者に協力してもらいたいことは伝え、いつでも学級で迎えることができる居場所をつくって欲しい。

- ・「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」の設問に対して73.8%の児童が「いる」と回答している。この割合を高める工夫を行っていききたい。日常の地道な活動を継続して行って欲しい。
- ・ファミリーグループによる「ちびっ子祭」「ファミリータイム」は効果的な活動である。少子化による遊び、仲間の減少を考えると、異年齢による集団活動は仲間づくりや思いやりの心、リーダーの育成に効果があると思える。今後も継続して欲しい。
- ・「もしいじめをしている人がいたら、とめることができますか」の設問に対して79.6%の児童が「しっかりできる」「できる」と回答している。こういった行動ができることはとても大切なことである。時によれば大人でもなかなか対応が難しいこともある。この数の拡大を目指し、今後、学級・学年作りを核とした学校づくり、児童が安心して学校生活を送ることができる環境作りに一層取り組んで欲しい。

4 家庭、地域との連携について

- ・学校では、学校・学年・学級便り、ホームページ等を利用して、情報を発信しているが、学校が抱える課題、例えば学習指導上や生徒指導上の課題など、学校だけで抱え込まず、積極的に情報提供し、学校、家庭、地域が連携し解決していくことが大切である。
- ・「地域、保護者は、児童生徒の安全確保に努めている」については、ほぼ全員の職員が協力的だと感じている。保護者による「登校時の旗振り」、高齢者による「子どもの帰り道ふれあい事業」など、児童の安全確保に有効に機能していると思われる。地域の方々を講師として招聘し、授業などに協力をしていただき、効果が上がっている。今後は更に、本校なりの人材バンクリスト的を作成していく必要がある。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、本校の前期の教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）については、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を分担遂行する中で学校教育目標の具現化に努めていると言える。
- ・全校児童の多くが、学校が「とても楽しい」、「楽しい」と回答し、昨年と同様に学校生活を肯定的にとらえている。
- ・授業については、多くの児童が「とても楽しい」「楽しい」と回答している。また、教師も基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のために、個に応じた指導を行っている。

Ⅱ 特 徴

- ・本校の特色である「ファミリーグループによる活動（縦割り班活動）」の内容の工夫と計画的な取り組みは、全校集団づくりや学級集団づくりなど、教師と児童の信頼関係や児童相互の好ましい人間関係づくりといった面で大きな効果を発揮している。
- ・合唱活動に積極的に取り組んでいる。一学期には3回のドレミファ集会を実施し、音楽の学習や学年の合唱活動の成果を発表するよい機会となっている。

Ⅲ 今後の課題として意識して欲しいこと

- ・教職員の自己評価と児童のアンケート結果から、教育活動に取り組む教職員の意識と児童の学校生活における感じ方にさほど差がないことがわかった。今後はこの結果を教育活動のさらなる充実につなげていくために、実践を工夫して行って欲しい。特に、P→D→C→Aサイクルを生かした学校評価、改善を繰り返しながら、より高次の教育を追求していただきたい。現在行っている、行事などの反省は、引き続いて、実施直後に反省をしていくとよい。
- ・生徒指導における教職員間での課題の共有を更に推し進め、児童個々にあったきめ細かな指導を引き続いて行って欲しい。
- ・確かな学力の定着のために、先生方も大変頑張っているところだが、今後も指導方法の工夫改善を行う中で、個に応じた指導を充実していただきたい。
- ・児童や学校が抱える諸課題の解決に向け、今後も家庭や地域の人々との情報共有や教育活動への参画を求めていく必要がある。
- ・児童へのアンケート、全質問25項目中（内3問は具体的な数字で答えるもの）、肯定的な回答が80%を超える項目が17個であり、全般的には良好な様子が伺えるが、「朝ご飯を食べて登校していますか。」「将来の夢や希望を持っていますか。」について「食べていない」「持っていない」と回答している児童が、それぞれ3人、15人いることも確認しておく必要がある。その他、C、Dを回答とした児童の分析、対応も積極的に行っていく必要がある。

※特記事項 なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切 道之 印